

小田原市 EV を活用した地域エネルギーマネジメントモデル事業に関する協定 調印式 (2019. 10. 18) 株式会社 REXEV 渡部社長 挨拶全文

市長からもお話がありました通り、今回、環境省が掲げる地域循環共生圏を構築するという大きな目標の事業がございます。その事業の採択を受け、非常に先端的な取組を地域から行っていくところが、非常に大きなものだと思っております。

“脱”炭素社会の構築

昨今ですと、「脱炭素」というものがキーワードになっています。「低炭素」ではなく「脱炭素」という言葉が使われております。CO₂を出さない、そうした交通のシステムを、EV を使うことによって実現し、かつ、その EV を走らせるための電力エネルギーを地産型の再生可能エネルギーで行っていくところが非常に画期的なところだと思います。

電気自動車が増えても石炭火力の燃料で発電した電気を充電しては、環境問題をトータルに解決することはできません。そこを地産の再生可能エネルギーで地域の人たちが使っていく交通システムを創るというところが非常に新しい点であると思っております。

地域の防災性向上のために

また、昨今、温暖化の影響もあると思っておりますが、災害が増えてきている状況の中で、今回利用させていただく日産自動車さんのリーフは非常に大きなバッテリーを積んでいるので、防災の観点からも非常に有力だと考えております。

小田原モデルを全国・世界へ

こうした取組は、環境性能、技術面（最近技術が向上し、電気自動車は距離が出ないという不安も払拭されている）や防災という観点からも非常に付加価値が高いと考えています。中には値段では測れないプライスレスな部分もありますが、これらは昨今、重要なテーマであると思っております。しっかりと小田原モデルを創りたいと思います。このエネルギーマネジメントモデルは全国に展開可能なものだと思いますし、再生可能エネルギーの導入という観点から電気自動車の活用というのは世界的なテーマにもなっておりますので、エネルギーマネジメントという先端技術を使い、世界にも展開が可能だと思っております。

しっかりとこの事業に取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。